「人間尊重の教育」推進事業

子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり

相互承認の感度を高める
系統性・連続性のある指導の充実を図る

子どもの自治的な活動の展開
子どもが「～したい」という意欲をもち、よりよい方法を考えて動き、集団づくりや社会への参画を通して、変化を生み出した喜びを手応えとして心に残すという主体的な活動

子どもからの積極的な発信
自分の思いや意見を発信し合い、実践していく機会の創出

「人間尊重の教育」推進事業

視点１　教職員自らの人間尊重の意識の向上

視点２　校種間の連携による連続性のある人間尊重の教育に向けた取組の推進

視点３　子ども自身が自分を振り返り、人間尊重の意識の高まりに気付く手だての構築

【研究事業1】 研究推進校方式
多様性に向き合う学校教育の推進

教職員が広い視野をもち、同僚性を発揮しながら、様々な人権課題に向き合っていく中で、教職員自らが相互承認の感度を高める。

【研究事業2】 研究推進校方式
「人間尊重の教育」を踏まえたグランドデザインの作成・改訂

学校と家庭が地域を基盤として、子どもの自尊感情と他人を思いやる心や生命を尊重する心の醸成を図る。

【研究事業3】 実践研究会方式
札幌市の子どもをつなぐ自治的な活動の推進

よりよい社会を実現していく担い手としての札幌市の子どもが、自分たちの思いや考えを発信し合い、その思いや考えを実践していく機会や創出する。

札幌市の子どもの現状

令和3年度札幌市全体の共通指標「学習などについてのアンケート」から(数字は肯定的な回答)

質　問（相互承認）	小学校	中学校
1.自分にはよいところがある	78.7%	76.8%
2.友だちのよいところを見付けようとしている	89.3%	91.4%
3.自分が必要とされていると感じる	61.5%	60.7%
4.人の役に立ててうれしいと感じることがある	92.4%	93.1%
5.人の役に立つ人間になりたいと思う	94.3%	93.5%

他者から承認される喜びや大切さを感じながらも、自分を承認することには結び付いていない傾向があることから、子ども一人一人が自分のよさや可能性を気付いていくことが課題。

札幌市学校教育の重点の基盤

子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する（共通仕様１～５）相互承認の感度を高め、様々な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる教育を推進する。

「人間尊重の教育」ガイドライン

令和4年（2022年）5月

札幌市教育委員会

目　次

第１章　ガイドライン作成の背景及び目的 …… 1
１　ガイドライン作成の経緯 …… 1
（１）　人権教育に関する国の動向 …… 1
（２）　札幌市における「人間尊重の教育」 …… 1
（３）　札幌市学校教育の重点における「人間尊重の教育」の位置付け …… 2
（４）　新型コロナウイルス感染症による学校教育への影響 …… 3
（５）　長期臨時（アンケート）の結果から見えたつぶやき子の現状 …… 3
２　ガイドライン作成の目的 …… 4
第２章　札幌市が目指す「人間尊重の教育」の推進 …… 5
１　札幌市学校教育の重点の「不易」としての「人間尊重の教育」 …… 5
２　相互承認の感度を高める …… 5
（１）　相互承認とは …… 5
（２）　相互承認の感度を高めていくことにより期待できること …… 6
３　子どもへ一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりの推進 …… 7
（１）　「人間尊重の教育」における学校の現場 …… 7
（２）　「人間尊重の教育」の推進に向けた三つの視点 …… 9
①　視点１　教職員自らの人間尊重の意識の向上 …… 9
②　視点２　校種間の連携による連続性のある人間尊重の教育に向けた取組の推進 …… 14
③　視点３　子ども自身が自分を振り返り、人間尊重の意識の高まりに気付く手だての構築 …… 16
※本書では、幼稚園について、「学校」を「幼稚園」と置き換えてください。

「人間尊重の教育」ガイドライン
二次元コード